

Insight みどりの7カヨミ

話題になったあのコトこのコトをその後の情報とともに深く読み解きます。

グリーンインフラ (Green Infrastructure)

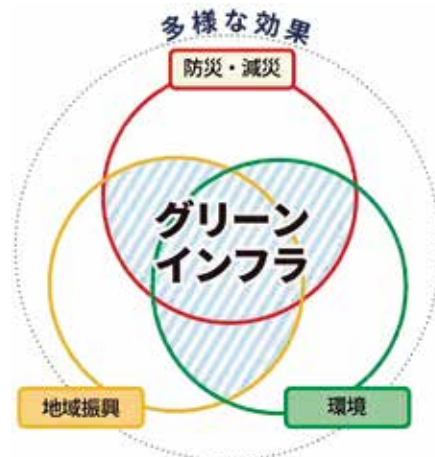
■ グリーンインフラとは

グリーンとインフラストラクチャー（以下、インフラ）を組み合わせた造語です。インフラとは、道路や水道、電線、堤防など、日々の生活を維持するために必要な基盤（＝社会資本）のことです。それでは「グリーンインフラ（みどりの社会資本）」とはどういう意味なのでしょうか？

「みどり（グリーン）」という言葉は植物や自然環境を連想させ、「環境」や「エコ」という意味あいでも一般的によく使われています。たとえば自然豊かな農山村で滞在するグリーン・ツーリズムや再生可能エネルギーにより発電されるグリーン電力、環境への負荷の小さな商品を選ぶグリーン購入、コロナ禍からの復興を環境重視の投資により目指すグリーンリカバリーなど、「グリーン」は国際的にも広く使われる言葉となっています。「グリーンインフラ」もこうした言葉の一つです。本誌の名称（みどりのこえ）もこの意味にあやかっています。

■ 期待される多様な効果

道路や堤防などに代表される、コンクリートによる人工構造物社会基盤はグレーインフラと呼ばれています。それに対し、グリーンインフラは自然環境を活用した社会基盤という言葉として使われることもあります。しかし、本来の定義はそれだけにとどまらず、「自然環境がもつ多様な機能（＝生態系サービス）を積極的に活用して社会資本（インフラ）の整備や土地利用を進めようとする概念」とされています。自然環境のもつ土砂災害防止、地下水涵養、二酸化炭素の吸収、景観の向上などの機能に加え、持続可能で回復力があるという特徴を活かして、気候変動適応や災害に強い国土の形成、まちづくりを進めるうえでの基本的な考え方として 1990 年代ご



図：グリーンインフラのイメージ（国土交通省の資料から引用）

ろから欧米で広がり始め、近年、日本においてもよく使われ、注目を集めはじめています。

■ 信州まちなかグリーンインフラ推進計画

長野県では、令和3年4月に「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」を策定しました。「グリーンインフラ」を冠した計画は都道府県として初めてです。この計画ではグリーンインフラの概念を基礎として、まちなかの緑地保全や屋上緑化など新たな緑の創出により暑さや減災対策としての機能をもちつつ、人びとが快適で歩いて楽しめるまちづくりを目指すこととしています。

当研究所ではこの推進計画を科学的に後押しするため、令和4年度からまちなかのみどりもたらす気候変動適応や減災の効果を評価する研究を始める予定です。

（浜田 崇／自然環境部）



プロモーション動画



グリーンインフラの例（松本空港の騒音低減や県民の憩いの場として整備された緩衝緑地）

